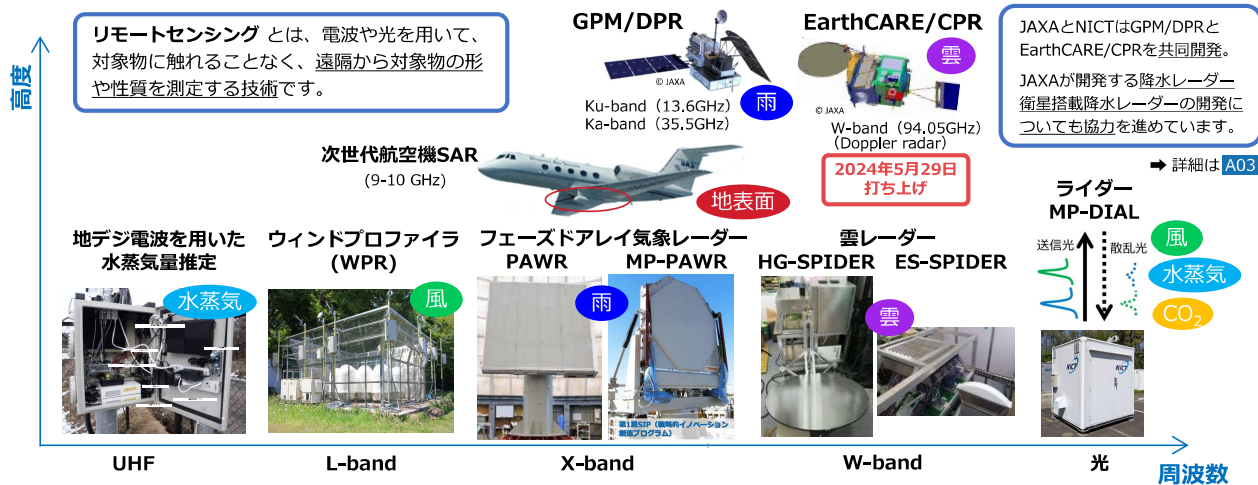


電波と光で地球を観る



概要

リモートセンシング研究室では、電波から光までの幅広い周波数帯の電磁波を使い、地上・上空（航空機）・宇宙（衛星）から、雨/雪・雲・風・水蒸気・地表面の状態など、様々な対象を観測する技術の研究開発をしています。



特徴

- ・装置開発：社会課題解決に向けて新しい技術を開発
- ・信号処理：受信された信号から必要な情報を抽出
- ・応用研究：得られた情報を活用して社会に貢献

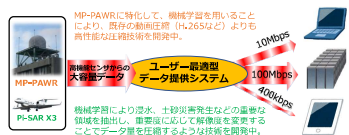
ユースケース

- ・地上からのセンシングによる突発的気象現象（ゲリラ豪雨や竜巻など）の早期探知や予測精度向上
- ・自然災害発生時の上空からの状況把握
- ・宇宙からのグローバルな気候変動モニタリング

今後の展開

- ・平時から災害時までシームレスに使える地球と人を守るセンシング技術の研究開発を推進
- ・センシングに関連する様々な技術の高度化（通信技術との融合、量子関連技術の利用など）

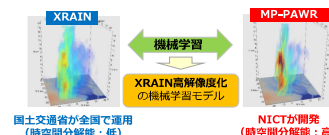
観測データ配信システムの整備



自然災害発生時の状況把握のために



センシング関連技術の高度化



ユーザーの目的や通信環境に応じて最適化されたデータを提供するシステムの構築を進めています。

自然災害時の迅速な状況把握のために、災害時の緊急観測や平時の基礎データ取得を行っています。

AI、量子などの新規手法や通信技術との融合など、新たなセンシング関連技術の開拓を進めています。

【お問合せ先】

電磁波研究所 電磁波伝搬研究センター リモートセンシング研究室
Mail : OH2025-RES@ml.nict.go.jp